

国語科学習指導案

河内長野市立千代田小学校

指導者 ○○ ○○

○○ ○○

○○ ○○

1. 日時 令和8年 2月 10日(火)5時間目(13:55~14:40)
2. 場所 河内長野市立千代田小学校 6年1組教室 6年2組教室 6年3組教室
3. 学年・組 第6学年1組(28名) 2組(29名) 3組(28名)
4. 単元名 書き表し方を工夫して、経験と考えを伝えよう
5. 教材名 「大切にしたい言葉」(使用図書・教科書:光村図書)

6. 単元の目標

○語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。

【知識及び技能】(1)オ

○目的や意図に応じて簡単に書いたり、詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。

【思考力、判断力、表現力】B(1)ウ

○言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝えあおうとする態度を養う。

【学びに向かう力、人間性等】

7. 指導にあたって

(1) 学年の児童について

本学年の児童は、心に響く言葉との出会いを楽しみ、言葉がもつ力を素直に受け取る感性が育っている。誰かの言葉に励まされた経験も豊かであり、言葉をきっかけに自分の内面が動かされた体験をすでにもっている。これは、本単元が大切にしている「言葉を手がかりに自分の考えを深めていく学び」を支える確かな土台である。一方で、よい言葉を日常的に蓄える習慣は十分とは言えず、単元の学びに生かすためには、必要な言葉を意識的に集める活動が求められる。12月から継続しているミニノート活動は、言葉との出会いを積み重ねる上で有効な素地づくりとなっている。

また、文章を書くことへの意欲には個人差があり、表現することを楽しむ児童がいる一方で、書くこと自体に抵抗を感じる児童もいる。しかし、多くの児童が「うまく書けた文章を誰かに読んでほしい」とい

う願いをもち、書く意義を他者とのつながりの中で感じようとする姿が見られる。推敲については、自分で読み返し、文章をよりよくしようとする姿勢が育っている一方、他者から修正されることに抵抗感をもつ児童も少なくない。自分が納得したときにのみ直したいという強い自己決定感をもつ児童もおり、協働場面においては、児童の主体性を損なわない仕組みが必要である。「勝手に書き換えられたくない」という感覚は、多くの児童に共通するものであり、本単元で大切にしたい指導の視点とも一致している。他者の文章を読むことに対しては前向きな児童が多く、友だちのよさを見つけたり、助言を受け入れたりする力も育っている。ただし、指摘を受けることに不安を感じる児童もいるため、安心して対話できる心理的安全性の確保が求められる。特に、丁寧語を用いた推敲対話は、互いを尊重しながら意見を交わすための有効な手立てとなる。

以上より、本学年の課題として、①言葉を蓄える習慣の弱さ、②書くことへの意欲の個人差、③推敲に対する受け止め方の多様さ、④対話場面における心理的安全性の確保が挙げられる。これらを踏まえ、言葉との出会いを積み重ね、安心できる対話を通して自分の文章を見つめ直し、協働的に表現を深めていく授業を構想することが重要である。

(2) 教材と指導について

本教材は、心に響く名言や身近な言葉を手がかりに、児童が自身の経験や考えと結び付けて文章を書く力を育むことを目的としている。多様な価値観を含む言葉の中から、自分にとっての「大切にしたい言葉」を選び取る活動は、児童が自分自身と向き合いながら主体的に学ぶことを促す点で有効である。指導にあたっては、「言葉に励まされた経験はあるが、それを表現する語彙や習慣が不足している」という実態を踏まえ、ミニノート活動と関連させて言語材料を豊かにする。また、単元のゴールを「クラスの名言集」の作成に設定することで、読み手を意識し、自分の言葉を誰かに届けるという明確な目的意識をもたせる。

本時である推敲の学習では、書き手としてのオーナーシップ(自己決定権)を尊重することを最も重視する。友だちに「直される」推敲ではなく、対話を通して自ら気づき、「自分で直す」プロセスを保障することが重要である。そのための手立てとして、丁寧語を用いた対話を指導の方針とする。丁寧語による対話は、協働的な場面に適度な距離感と心理的な安心感をもたらし、互いを「書き手」として尊重しながら率直な意見交換を行う土台となる。友だちからの助言を吟味し、自らの判断で文章を磨き上げる経験は、中学校以降で求められる多角的な視点や自律的に学ぶ姿勢につながる。本単元を通して、児童が「言葉との出会い」から「自分との対話」、そして「他者への発信」へと学びを深め、「推敲することで自分の思いがより伝わるようになる」という自己効力感を育むことをねらいとする。

なお、本単元は、本校研究主題「主体的、協働的な学びの中で、自分の考えを表現できる子どもの育成～国語科の説明文において読み取る力・書く力を高める指導の工夫～」を踏まえて設定した。今年度の校内研究授業では、実施学年において、推敲を通して表現を高める学習場面が継続的に見られてきた。本単元は、その一年間の学びのまとめとして、最高学年である6年生においても推敲の場を意図的に位置付け、これまでに培ってきた力を十分に発揮させたいと考え、選定したものである。また、系統性の観点から、低・中学年から積み重ねてきた本校の研究の成果を踏まえ、千代田小学校が目指す書く力の「ゴールの姿」を具体的に示す単元として位置付けている。

8. 単元の評価規準

| 知識・技能 | 思考力・判断力・表現力 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---------------------------------------|--|--|
| 語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。(1)オ) | 「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) | 自分の考えが伝わるように書き表し方を粘り強く吟味し、見通しをもって大切にしたい言葉についての文章を書こうとしている。 |

9. 指導と評価の計画（6時間）

| 時間 | ねらい・学習活動 | 評価規準(観点) 【評価方法】等 ◎指導に生かす評価 ○記録に残す評価 |
|----|--|--|
| 1 | <ul style="list-style-type: none"> 単元の大まかな流れを確かめ、単元最後に6年名言集を完成させることを知る。 自分の大切にしたい言葉を選ぶ。 選んだ言葉と自分の経験を結びつけ、整理する。 | ◎主体的に学習に取り組む態度【ノート】 |
| 2 | <ul style="list-style-type: none"> 文章の構成を考える。 原稿用紙エディタで下書きをする。(550~600字程度に設定する。) | ○思考力・判断力・表現力(B(1)ウ)【原稿用紙エディタ】 ○主体的に学習に取り組む態度【ノート】 |
| 3 | 観点に沿って、文章を読み合って推敲し、書き直したり、修正したりする。 観点1 読みやすく、分かりやすい文章になっているか。 <ul style="list-style-type: none"> 文を適切に区切っている。 はじめ・中・おわりの構成になっている。 | ◎知識・技能【原稿用紙エディタ】 ○思考力・判断力・表現力(B(1)ウ)【原稿用紙エディタ】 |
| 4 | 観点に沿って、文章を読み合って推敲し、書き直したり、修正したりする。 観点2 大切にしたい言葉と自分の考えが、つながって書かれているか。 <ul style="list-style-type: none"> 参考にした言葉を示している。 誰の言葉か、いつの言葉か明確にする。 その言葉を選んだ理由が書かれている。 自分の思いや考えとつながっている。 | ◎知識・技能【原稿用紙エディタ】 ○思考力・判断力・表現力(B(1)ウ)【原稿用紙エディタ】 |

| | | |
|-------------|--|-------------------------------|
| 5 本 時 | <p>観点に沿って、文章を読み合って推敲し、書き直したり、修正したりする。</p> <p>観点3 経験や気持ちが、読み手に伝わるように書かれているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の経験が書かれている ・そのときの気持ちが詳しく書かれている。 ・必要なエピソードが添えられ、内容に説得力がある | ○思考力・判断力・表現力(B(I)ウ)【原稿用紙エディタ】 |
| 6 | <p>推敲をもとに、清書する。</p> <p>読み合って感想を伝える。</p> | ◎主体的に学習に取り組む態度【ノート】 |

10. 本時の展開（第5時／6時）

(1) 本時の目標

観点に沿って文章を推敲し、書き表し方を工夫することができる。

(2) 本時の評価規準

観点に沿って文章を推敲し、書き表し方を工夫している。【思・判・表】B(I)ウ

(3) 本時の判断基準

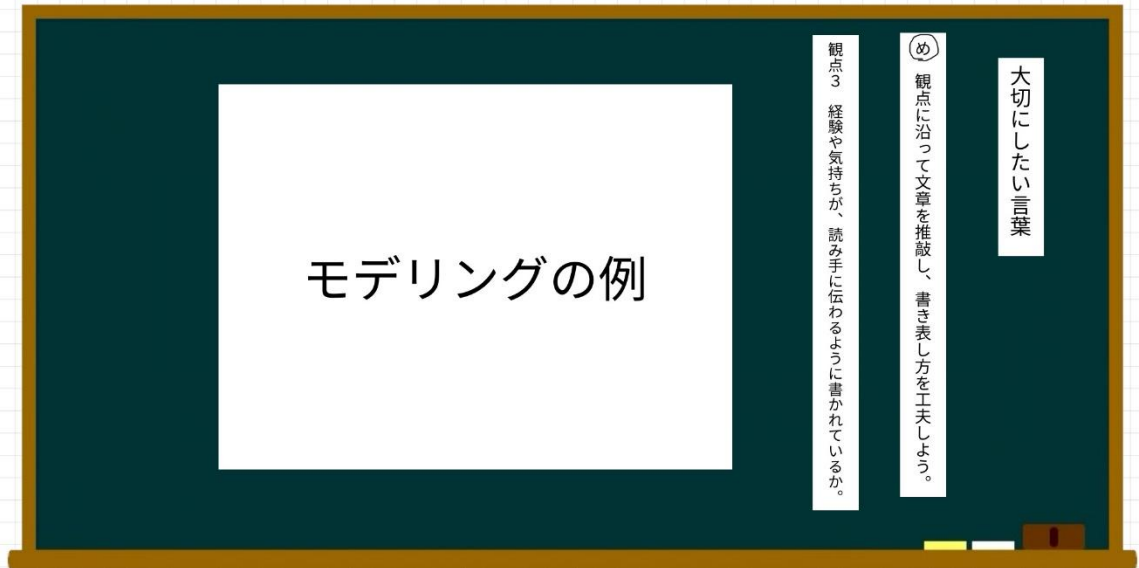
| 十分満足できる状況(A) | 概ね満足できる状況(B) | 努力を要する子どもへの支援(C) |
|---|----------------------------|--|
| 読み手(友だち)への伝わり方を強く意識し、事実と感想の結び付きや描写の詳しさが効果的になるように、自らの判断で書き表し方を十分に工夫している。 | 観点に沿って文章を推敲し、書き表し方を工夫している。 | 個別に机間指導を行い、事実(出来事)と感想(気持ち)が混ざっている箇所や言葉足らずな箇所を具体的に示し、問いかけを通して修正の方向性に気付くように支援する。 |

(4) 本時の学習過程

| 時 | 学習内容・学習活動 | 指導上の留意点 | 評価規準(観点) 【評価方法】等 ◎指導に生かす評価 〇記録に残す評価 |
|----------|--|---|--|
| 導入 7分 | <p>1. 前時の振り返りと本時のめあてを確認する。</p> <p>め 観点に沿って文章を推敲し、書き表し方を工夫しよう。</p> | <p>本時の焦点が「事実を詳しく書き、気持ちを伝えること(観点③)」にあることを明確にし、期待感を高める。</p> | |

| | | | |
|-----------------------------------|---|--|--|
| <p>展 開 ① 10 分</p> | <p>2. 修正モデル(AとB)を比較し、観点②の視点をつかむ。 ・教師が用意した比較文を提示する。 ・気付いたコツを板書し、自分の推敲の視点とする。</p> <p>3. 自分の文章を推敲する。(個人)</p> | <p>・「具体的に書くとは、五感(音や見た目)を使うことだ」など、修正のヒントを具体的に共有する。 ・「Bの方が気持ちが伝わるのはなぜ?」と問い、「事実を詳しく書く(映像化)」「事実と気持ちをセットにする」という具体的な方法に気付かせる。</p> | |
| <p>展 開 ② 10 分</p> | <p>4. 3人グループで読み合い、推敲する。</p> | <p>・単なる「ダメ出し」ではなく、「質問」によって書き手のイメージを膨らませるよう助言する。 ・【丁寧語の励行】 「~だと思えます」「~はどうですか?」といった言葉遣いを徹底させ、心理的安全性を確保する。 ・机間指導では、事実と感想が混ざっている児童や、描写が抽象的な児童に個別支援を行う。</p> | |
| <p>展 開 ③ 13 分</p> | <p>5. アドバイスや気付きをもとに、言葉を書き加えたり、修正したりする。</p> | <p>オーナーシップを尊重し、友だちの意見をすべて採用しなくてもよいことを伝える。</p> | <p>○観点に沿って文章を推敲し、書き表し方を工夫している。(思・判・表) B(I)ウ 【原稿用紙エディタ】</p> |
| <p>ま と め 5分</p> | <p>6. 本時の振り返りをする。</p> | <p>・「推敲すると、自分の思いがより伝わるようになる」という自己効力感を持たせて終わる。 ・次時の清書への見通しを持たせる。</p> | |

1.1. 板書計画



1.2. 観点に気が付くための資料（修正モデル（AとB）モデリングの材料）

1. 【観点①】構成・読みやすさに気付くセット 3時間目の授業資料

狙い：「かたまり（段落）」がないと読みづらいこと、話の順序（はじめ・中・おわり）が大事なことに気付かせる。

★子どもへの問いかけ「AとB、書いてあることはほとんど同じなのに、Bの方が読みやすいのはなぜだろう？」→ 気付き：「段落がある！」「はじめ・中・おわりの形になっている！」

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|----|----|---|----|----|---|----|---|---|----|---|---|---|---|---|---|---|----|----|---|---|---|----|---|
| た | 胸 | 学 | こ | と | ま | た | ま | つ | 週 | 度 | は | 私 | て | 「 | あ | 学 | 私 | く | ま | ト | も | 初 | す | 「 |
| い | に | び | の | 思 | で | な | し | い | 休 | も | 顔 | は | い | 「 | と | 校 | は | れ | ま | で | も | は | 私 | 「 |
| で | 、 | ま | の | い | あ | ！ | 。壁 | に | ま | も | を | は | る | 「 | と | で | 、 | ま | した | 、 | 毎 | 初 | 。私 | 「 |
| す | 、 | し | の | ま | き | と | に | 二 | ず | 思 | 水 | は | 言 | 「 | と | も | 、 | した | 、 | 週 | は | は | 「 | |
| | 勉 | 。中 | の | し | ら | と | タ | 十 | に | い | に | 三 | 葉 | 「 | と | 、 | 、 | と | 、 | 休 | 、 | は | 「 | |
| | 強 | 学 | の | 。私 | め | 大 | ッ | 五 | 通 | ま | つ | 年 | は | 「 | と | 、 | 、 | と | 、 | 、 | 、 | は | 「 | |
| | や | 校 | の | は | ず | き | チ | メ | い | ま | け | 生 | 、 | 「 | と | 、 | 、 | と | 、 | 、 | 、 | は | 「 | |
| | 部 | に | 私 | 続 | に | に | し | ト | ま | し | て | が | 「 | 「 | と | 、 | 、 | と | 、 | 、 | 、 | は | 「 | |
| | 活 | 行 | は | け | 続 | 続 | た | を | し | 。あ | 、 | 一 | 「 | 「 | と | 、 | 、 | と | 、 | 、 | 、 | は | 「 | |
| | に | っ | 続 | て | け | て | 瞬 | 泳 | ま | 。あ | 、 | 番 | 「 | 「 | と | 、 | 、 | と | 、 | 、 | 、 | は | 「 | |
| | 粘 | っ | け | き | て | 本 | 間 | ぎ | し | る日 | の | 大 | 「 | 「 | と | 、 | 、 | と | 、 | 、 | 、 | は | 「 | |
| | り | て | る | 。本 | 当 | に | 、先 | 切 | た | こと | が | 切 | 「 | 「 | と | 、 | 、 | と | 、 | 、 | 、 | は | 「 | |
| | 強 | も | こ | 当 | よ | か | 生 | る | 「 | が | や | 「 | 「 | 「 | と | 、 | 、 | と | 、 | 、 | 、 | は | 「 | |
| | く | 、 | の | か | っ | っ | が | こ | 「 | や | っ | 「 | 「 | 「 | と | 、 | 、 | と | 、 | 、 | 、 | は | 「 | |
| | 取 | 、 | の | っ | た | た | が | の | 「 | っ | 「 | 「 | 「 | 「 | と | 、 | 、 | と | 、 | 、 | 、 | は | 「 | |
| | り | こ | 大 | っ | 。今 | 今 | 「 | の | 「 | 「 | 「 | 「 | 「 | 「 | と | 、 | 、 | と | 、 | 、 | 、 | は | 「 | |
| | 組 | の | 切 | っ | 。今 | 今 | 「 | テ | 「 | 「 | 「 | 「 | 「 | 「 | と | 、 | 、 | と | 、 | 、 | 、 | は | 「 | |
| | んで | 言 | き | っ | 。今 | 今 | 「 | ス | 「 | 「 | 「 | 「 | 「 | 「 | と | 、 | 、 | と | 、 | 、 | 、 | は | 「 | |
| | 行 | 葉 | を | っ | 。今 | 今 | 「 | ト | 「 | 「 | 「 | 「 | 「 | 「 | と | 、 | 、 | と | 、 | 、 | 、 | は | 「 | |
| | き | を | を | っ | 。今 | 今 | 「 | で | 「 | 「 | 「 | 「 | 「 | 「 | と | 、 | 、 | と | 、 | 、 | 、 | は | 「 | |

